
泉

ジラーが笑った日

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

梟

【Zコード】

N7163M

【作者名】

ジラーが笑つた日

【あらすじ】

2人の男、蝙蝠、そして梟

梟が叫ぶ。蝙蝠が死んだ。

暗い森の奥の奥、人が一人で立っていた。こそり、こそりと心配そうに一人で何かを話している。ガサガサ、ガサ。一人は辺りを見回して吹きつく風が寒いのか、小さく微かに震えている。まるで怯える鼠のように。じやく、じやく、じやく。一人が地面に穴を掘る。もつと深くもつと深くと。まるで、恐怖を土に閉じ込めようとするかのように。まるで醜い豚のように。怯える鼠が人を持ち、深い穴に投げ捨てる。そして土を一人で被せる。まるで何かが逃げないよう、固く固く土を固める。二人は逃げる。逃げる、逃げる、逃げる。

だが、梟は叫ぶ。蝙蝠は死ぬ。二人は結局、死んでしまった。怯えた鼠に醜い豚。殺した二人は殺された。怯えた鼠は梟に、捕らえられて死んでゆく。醜い豚は腐った蝙蝠を、食べて息絶えてゆく。怯えた鼠に埋められた、人は静かに消えてゆく。

梟が眠る。蝙蝠は飛んで行く。

暗い森に、夜明けが来る。光が闇を包み込み、雨が降つて全てを流した。暗い森にさえ光が届く。けれど二人には届かない。暗い命を背負つて消えた、二人の闇は光を飲み込む。光は消える。二人も消える。残るのは梟の羽に、蝙蝠の血。光が過ぎ去りまた戻る。戻った光もまた消える。消える、消える、消える。

また今日も梟は眠る。蝙蝠は飛んで行く。一人の闇が、四人の闇に。四人の闇が、八人の闇に。人の闇に、光は負ける。

夜明けがくれば、暗い森にも朝がくる。けれど、来なければ。

梟が叫ぶ。蝙蝠が死んだ。暗い森には叫びが絶えず、腐臭は消え
ることが無い。

(後書き)

あなたには、蝙蝠と梟が何か分かりましたか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7163m/>

梶

2010年10月15日21時15分発行